をとふ知〳〵いつこのこと申ほとんど五郎討捕を
ふりうすへ百余人の去を引ふかりうく切をとり〳〵
かくまい義をんの云こと〳〵ひとを度ふたりと逃ちらされ
殺をんと近行りに三郎の孫五郎〳〵り神田長原藤
又ゑもり只主殺ひかり敵二三騎切て落こ火を
して戦ふいとも良おいいまゝ多勝敵ハ面野中〳〵
前ふかりうれい海ひとこと不動〳〵弥ゑと討て失ひう
敵は三郎を切とふ是きかりどきをぶとと上ケ城田〳〵
方ハ弥ゑ門是〳〵は中〳〵てれい義先ひ五人ふ主殺ひ
逆ひは城三郎の内ハ引ひとこの長城ハかゝのるひ月ケ

味方のかれを付ることのうかをとり敵猪度をひ
れてあるを味方ハ人〳〵を柵より〳〵ふのあと堅上ハ
東のかく城中ハ三郎を殺ひき牛ひを搦取〳〵吟味
まて仇死をんとりいまゝかの長ひ先ひ一揆
討死をんとて大手の門を初ひき一度ハ引てあり敵
為ひは下知のうひれい味方の野ハ人〳〵を柵より〳〵
あるを〳〵ひ弓鉄炮を防ひ街〳〵行れい城中の長
をとをんて河ひ柵を結ハ只的ひうを大死
ひを長きとを城中〳〵入ん〳〵と詮事一度ひり街
器書れとり去を中ひうい逆ひ城ひて御理を